

12/31 朝日

「なぜ私」コロナ患者みとるたび

家族入れぬ病棟 看護師の葛藤

「私なんかじゃなくて、院の看護師の20代女性は、ほどで3人が亡くなった。家族と一緒に最期を迎えた患者をみると時の心境を声を詰まらせながら語った。いはずなのに。切ない」

静岡県内で新型コロナウイルス患者を受け入れる病

院の看護師の20代女性は、ほどで3人が亡くなった。患者をみると時の心境を声を詰まらせながら語った。いはずなのに。切ない」

12月からコロナ病棟で勤務する。働き始めて1週間

に感染者が入院する病棟のレッドゾーン（汚染エリ

ヒネを投与するといつ

の医師や自分たち看護師のみ。息を引き取る瞬間、心の中でこう自問する。「なぜ、家族ではなくて私がここにいるのか？」

コロナ病棟を希望したわけではない。幼い子供がいる同僚は断つた。この看護師は独身で、上司から面談で「お願いします」と頼まれた。離れて暮らす母親は、「あなたを誇りに思うけれど、どうか感染しないで。

コロナ病棟の看護師たちは、身も心もすり減らしながら入院中の患者らを見守っている。「私たちの姿を知つて欲しい」。看護師たちが重い口を開いた。（小林太）

「飲み会したんや」べつとへりえた

「口ナ病棟すり減る看護師

1面から続く

「どんちゃん騒ぎして飲み会したんや。あれが原因やつたわ」

国立病院機構近畿中央呼吸器センター（堺市北区）に入院した新型コロナウイルス患者が発した一言に、防護服を着て医師とともに治療を担当する看護師はぐっと

「どんちゃん騒ぎして飲み会したんや。あれが原因やつたわ」

言葉をのみ込んだ。同センターの看護師長（49）は、看護師と患者のそななりとりを明かした。コロナ病棟の看護師は約40人。家族以外との飲食は自由で暮らす医療スタッフもいる。『ちょっと待ってよ』

第1波から軽症・中等症患者を受け入れるコロナ病棟を設け、当初の20床から11月には45床に拡大した。担当する看護師は3ヵ月交代で、様々な病棟から募る。患者の中には、自宅やホテルで療養中に急変し、高熱で意識がもうろうとした状態で運ばれてくる人もいる。気がついたら入院していて、介助する防護服姿のスタッフに「何すんねん」と手をあげたケースもあつたという。

看護以外の仕事も多く、病室やトイレの掃除だけで毎日1時間以上かかる。外出できない患者のために、日用品や菓子などの買い物も代行する。看護師長は「3ヵ月間、見

えない感染と戦つていきたために、スタッフの動機付けを含めて現場の雰囲気をつくるのが大変だ」と話す。現状では、年末年始も数日休めるかどうかという勤務体制を続けるしかない。

ストレス抱え涙

「誰かがやらないといけない」と思うが、『なぜ自分ばかり』と涙を流すこともある。

そんな葛藤を吐露したのは、首都圏の病院で働く30代の女性看護師だ。7月からコロナ病棟で働く。患者は9割が高齢者。最近は高齢者施設でのクラスター（感染者集団）が増え、認知症や障害のある患者が増えてきた。食事や着替え、おむつ交換など身の回りの介護、介助の仕事が増えている。

認知症患者は病棟内を歩き回るほか、点滴の注射をする際にしばしば吐かれた。休めは29日から1月3日までの間にわずかに2日。残業代も出でていない。「メンタルがきつく、このままでは患者によいケアができない。政府にはもっと医療現場の声を拾つて対応

感染への恐怖がストレスに拍車をかける。

慢性的な人手不足で、交代要員が来ない時期もあった。休みは29日から1月3日までの間にわずかに2日。残業代も出でていない。

もし、子どもたちがうつ病棟で働いている。したら？ 学校や幼稚園で、いじめられるのでは？ 常に不安を抱えながら勤務を続けてくるといい。

（川田博史、堺之内健史）

して欲しい。血口纏性の精神で働くところの医療者はいません」と訴える。

子につつしたら



近畿中央呼吸器センターのコロナ病棟にあるナースステーション。患者の点滴などを2人1組で看護師が確認している=同センター提供

看護以外の仕事も多く、病室やトイレの掃除だけで毎日1時間以上かかる。外出できない患者のために、日用品や菓子などの買い物も代行する。

看護師長は「3ヵ月間、見